

# 向学館通信

2009・12・26

お正月は1年の計を立てるときです。1年をどう過ごすのか、積極的な計画を立ててください。遊び癖や、生活の乱れがないようにしてください。

★冬休みに頑張って差をつけよう！  
普段できない「やり直し」などに力を注ぎましょう。

## 冬休みを活用しよう！ 前向き人間になろう！

学校が休みになると、だらだらと時間を使ってしまう。「今日もまた、何もしていなかった」などと思うような過ごし方をしないようにしましょう。

たとえば、休み中に、英語の単語を300語覚えるとか、漢字・熟語・四字熟語などをいくつ覚えるとか、数字で表される目標をもって、それをやり遂げるようにしてほしいと思います。そうすれば、やりとげた達成感が、自分をひとまわり大きくしてくれることでしょう。

やったぞ、と充実して明日に向かう生き方を選んでください。何倍も生きることが楽しくなります。

## 今年は大きな「事件」がたくさん。時事問題にも関心を持とう！

毎年、年末になると、「今年の重大ニュース」などといって、マスコミなどが大きく扱います。これらのニュースの中には、社会の仕組みや動きを知るのに好都合な問題がたくさんあります。今年は、とくに考えさせられる出来事が多かったようです。お正月の休みに、ご家族で、こうした問題を論じて、社会問題に通じてほしいと思います。

時事問題にうとい生徒は、社会が苦手です。社会を「暗記もの」ぐらいにしか考えていない人は、現実の社会に関心を持ちませんので、「おもしろくない勉強」として敬遠しがちです。こういう人は、高校受験でも、社会の点数が伸びないので苦勞することになります。新聞の伝えることが、一つでも多くわかるようにすれば、社会は面白くなります。

## 「向学館 実力テスト」(中1、中2対象)の結果

まだこの実力テストを受けていない人がいますが、受けた人たちの結果をかいつまんで報告しておきます。

まず、学校の定期テストとちがって、問題の範囲が広く「これまでに習った全ての範囲」からの出題ですから、かなり以前に習ったことを正しく覚えているかが試されるわけです。高校入試などの問題もこれと同じで、広い範囲から出されます。これは「実力」が問われるのです。

結果は、たとえば、学校の定期テストで80点台の人が実力テストでは50点前後、また、学校のテストで50～60点ぐらいの人は実力テストでは30点前後、といったところでした。つまり、ごく一部の人を除いて、多くの人は、学習したことの定着の割合が低い、という結果でした。

この結果から、積極的に弱点を発見してそこを強化していくようにすれば、成績が伸びることは間違いありません。せっかくのこうした機会をぜひ生かしてください。

## 中3生は、今、入試問題の「特訓」に取り組んでいます。

12月26日から30日までの5日間、連日、朝8時30分から(9時からの人もいます)午後4時半まで、中3生は志望校別特訓にとりくんでいます。午前中に、各自の志望校の入試問題を5教科(1年分)受験し、午後は1時半から4時半まで、全員「1:2」でそのテスト結果の解説指導を受けています。

この特訓のねらいは、次のようなことです。①1点でも無駄にしないよう、合格できる試験の受け方をマスターさせる。②入試傾向に沿った解き方を身につけさせる。③合格点をより確実にとるために、今後、入試までの期間に何を重点的にすべきかを明確にさせる。④長時間の集中的な学習をとおして、気持ちを切り替え、直前の受験勉強に対する集中力・持続力・精神力をつけさせる。等です。

また、毎週金曜日の「理科・社会特訓」(一斉授業)も、中3生対象に行っています。普段、あまり理・社の学習ができない分の補いでもあるし、有効な受験対策の一環です。